

名松線で無人列車が8.5km走行！ 会社はすぐに運転士の作業忘れが原因と発表！ たった2時間でエア圧力ゼロでノーブレーキ！

8月20日午前、三重県 J R 名松線で気動車が、無人のまま8k530m走行するという事故が発生しました。この列車に手歯止は使用されておらず、2時間後エアブレーキのエア圧力が0でブレーキが利かなくなり、勾配線であったため自然に転がりだしたものとされています。

会社は翌日「運転士の手歯止めの置き忘れ」「初歩的なミス」と発表しました。たしかに直接的な原因は手歯止めを使用しなかったことです。しかし、私たちは他にも多くの要因があると考えます。たった2時間後にエアブレーキ圧力がなくなる車両。勾配線に車両を止めること。手ブレーキ（サイドブレーキ）がついていない車両。仮に動いても本線には進入しないようにポイントの方向はないのか。運転士が車両を留置した後、他の人が確認する作業はできないのか、など多くの問題が浮かび上がってきます。

これまでも家城駅では発車準備をする際に、エアブレーキ圧力が0で手歯止のみで止まっているということも多く発生していました。会社はこのようなことは知っていたはずですが。J R 東海の規程の中では、車両が駅の外へ行ってしまった時どうするのか細かく決められています。つまり何度も教訓があったということです。またこれまでに多くの乗務員が訓練等で勾配線での留置はやめるべきだと会社に訴えてきています。手ブレーキがついていなくて大丈夫なのかと、東海労は申し入れも行ってきています。このようなことにまったく聞く耳を持たない、J R 東海の姿勢が無人走行が発生させたとも言えるのです。

私たち J R 東海労は当事者のみに責任を押しつけ、自らを律しようとしないう J R 東海の体質を改善するためにさらに声をあげていきます。